

花水木

Mori Haruki

森 春輝 (70期)



新宿駅近くにある老舗ミニシアター 新宿武蔵野館

皆さんは、映画はお好きでしょうか。こう聞かれて、好きではないと答える方は少ないと思います。しかし、映画は好きでも映画館には年2、3回しか行かないという方が多いのではないのでしょうか。

私はというと、映画鑑賞が趣味です。なかでも、映画館で映画を見るのが好きです。2023年は、年間45回映画館に行きました。小学生の頃から一人で実家近くの映画館に行ったり、大学時代は映画サークルでカメラを回していたりと、映画は昔から好きでした。弁護士になっていなければ、映画業界の仕事に就いていたかもしれません。

映画を見ることは、登場人物の行動を追体験して、アクションに心躍らせたり、緊張感迫る展開にハラハラしたり、感動的なシーンに涙したり、はたまた最後の伏線回収に驚きとともに感心したり、そのすばらしさは誰しも感じることでしょう。

今の時代は自宅でもサブスクの配信で手軽に好きな映画を見れますね。

しかし、映画への没入感という点では、映画館での鑑賞とは比較にならないと思います。

自宅で映画を見るのも良いのですが、まずテレビやスマホとはスクリーンの大きさも音響も違います。また、自宅で映画を見ていると、どうしてもほかのことに気をとられたり、連絡がきたりして鑑賞を中断してしまうこともあるかと思います。

一方、映画館で映画を見るときは、2、3時間の間、スマホを見ることがもなく、誰からも話しかけられることなく、大きなスクリーンと音響でその映画の世界だけに集中できます。ストーリーの展開と俳優の演技、それを見て抱いた自分の感情だけに身を任せることができるのです。最近では、映画館がデジタルデトックスにも良いとも聞きます。

昨年2月、公開25周年を記念して上映されたジェームズ・キャメロン監督『タイタニック』の3Dリマスター版を見に行きました。もちろんこれまでも『金曜ロードショー』などで見たことはあるのですが、改めて映画館で集中して鑑賞することで、より名作であると感じるとともに、沈みゆくタイタニック号に迫る水の迫力は映画館のスクリーンでこそ味わえるものがありました。

映画館の中でも、大手シネコン

にある「IMAX」や「4DX」といった規格のスクリーンでは、音響や映像技術によって、より臨場感あふれる映画体験ができます。

他方、ミニシアターと呼ばれる街の小さな映画館では、大手シネコンとは一味違ったラインナップの映画を見ることができます。2017年製作で大ヒットした上田慎一郎監督『カメラを止めるな!』のように、ミニシアターから口コミで全国に広まった映画もありますね。

さて、近時、映画製作の現場の労働環境を見直そうという動きが起きています。日本映画制作適正化機構というものが設立され、映画業界の働き方改革の役割を担う仕組みがスタートしました。『万引き家族』『怪物』の是枝裕和監督らは「action4cinema」という団体を立ち上げ、さらなる労働環境の改善等のために活動しています。

私は弁護士の業務としてこのような問題に関わることは現状ないのですが、映画好きとしてこの映画業界の支えになることができないかなと思う今日この頃です。🎬